

平成29年度早良ひまわりハウス事業報告

【事業概要】

高齢をむかえる障がい者を対象としたグループホームとして、平成29年4月に開所しました。(4月にハウス1、6月にハウス2)入居者決定後、辞退者が出たため、12名で開所しました。その後、体験利用を数名の方が行い、5月に1名、7月に1名、1月に1名入居が決まり、定員満床になりました。入居者の方は日中、障がい福祉サービス事業所等に通うため、各事業所との連携を図りながら支援に取り組んでいます。利用者支援については、主に食事提供、入浴支援、生活支援(身辺整理)などを中心に行っています。それぞれができることは見守りながら、一人では難しいことは一緒に支援を行いながらお一人おひとりの生活の充実を図れるよう取り組んでいます。健康面に関しては、ご家庭との連携をとりながら、場合によっては、通院同行なども行い、各自の体調管理に努めています。今後は、入居者の加齢による体力及び身体能力の低下に伴った支援にも取り組んでいきます。

また、併設のショートステイ(定員2名)については、法人内利用者のみならず他法人利用者も利用されています。夏休み期間には、特別支援学校高等部の方も利用されています。利用状況としては、週末を中心にご利用があり、月平均6~7割程度の稼働率となっています。

今回新たな取り組みとして設けた親子体験室については、ご利用があまりなく、今後の周知徹底が課題であります。

既存のグループホーム(今宿、皿山、壱岐団地)についても平成29年度より当事業所の管轄となっています。各グループホーム巡回は、法人内の各事業所が毎週1回行っています。また、世話人が急遽休みの時などは、当事業所職員を中心に代行業務を行っています。各グループホームの世話人とは連絡を取りながら、場合によっては現地にて対応しています。

さらに、併設の特定相談事業では、法人内の事業所利用者を中心に障がい児の方も含めサービス等利用計画作成などを行っています。

次年度は、グループホームに関しては、お一人おひとりに合った細かな支援の充実をショートステイについては、更なる稼働率の向上を親子体験については、関係機関への周知を既存のグループホームについては支援体制の見直しを特定相談支援事業については、引き続き登録者のサービス等利用計画及びモニタリングを通してお一人おひとりの生活の充実に努めます。

1 利用者の状況

項目	内容
定員（実利用）	15 名（15 名）
男女別	男性：8 名 女性：7 名
平均年齢	52 歳（男性 51, 8 女性 52, 1）
障害の程度	A1（3 名）A2（6 名）A3（2 名）B1（3 名）B2（1 名）
支援区分 平均	2（2 名）3（3 名）4（8 名）6（1 名）なし（1 名） 3, 4

2 職員の状況

管理者 1 名 サービス管理責任者（管理者兼務）1 名

常勤職員 4 名 パート職員 2 名 夜勤職員 13 名（シフト制）

世話人 4 名（委託契約）

3 サービス支援業務の実施状況（共同生活援助事業）

日常生活支援

入居者の皆さんの各自の自立度に合わせて大きく 3 段階に分けて支援を行っています。

① お一人でできることは、できる限りご本人に行っていただき最後に職員が確認を行う

② おひとりで難しいことは職員が介助しながら一緒に支援を行う

③ ご自分でできないことは職員が介助を行う

現状の入居者の支援状況は概ね、① 6 名② 8 名③ 1 名となっています。

（1）食事支援

食材に関しては、業者による宅配を利用し、世話人が調理を行っています。メニューについては、業者側の栄養士がカロリーや栄養計算を行ったメニューを作成しそれを基に、世話人が調理し提供しています。通常の業者作成メニューに加え、入居者の誕生日や季節メニューは、世話人がメニュー作成から行い提供しています。また、一口大や刻みなどについても対応するようにしています。

（2）入浴支援

入浴については、毎日入浴してもらうようにしています。声掛けや促しを行いながら見守も行っています。場合によっては、浴室内で介助を行うこともあります。また、皮膚疾患の感染予防のため、浴

室清掃、足ふきマット等はこまめに清掃、取り換えを行っています。利用者の方で足元のふらつきなどのおそれがある方には、浴室用介護チェアなどの介護用品の利用も行い、安全に配慮しながら支援を行っています。

（３）排泄支援

排泄についてほとんどの方が自立されています。ただし、数名の方は促し、介助が必要な方がおられます。介助を要する方については身障者用トイレを使用して介助を行っています。介助度については現在全介助の方が１名、その他の方は、自立、声掛け、一部介助となっています。

（４）健康に関する支援

毎朝、バイタルチェックとして血圧、検温測定を行い体調不良時には保護者、事業所に連絡を取り状況によっては、通院などの対応をとっています。

また、服薬については、ご自分で管理されている方については、服薬後の確認を管理が難しい方は、事務室で管理し投薬時に支援を行っています。

（５）衣類に関する支援

衣類の着脱については、２名の方は、介助が必要ですが、その他の方については、自立されておりご自分でされています。着替え後は職員がチェックを行い、場合に応じて再度、着替えの促しを行っています。

衣類の衣替えに関しては、季節の変わり目の時期に職員と一緒にを行っています。また、保護者が来訪されている方もいらっしゃいます。

（５）夜間支援

夜間（19:45～7:45）は、夜間専門職員により定時巡回や介助を行っています。ハウス１、ハウス２に各１名ずつ配置しており、ハウス１には主に看護師免許有資格者を配置しています。

4 短期入所事業

(1) 利用状況

月	利用者数 (人)	実利用日数	月	利用者数 (人)	実利用者日数
4月	1	14	10月	14	40
5月	5	28	11月	13	44
6月	8	33	12月	12	35
7月	8	18	1月	10	32
8月	8	57	2月	13	46
9月	8	55	3月	17	52

(2) 利用内容

4月開所当初は、当法人内事業所所属の方の利用がほとんどでした。しかし、7月ごろから他法人事業所所属の方の利用が増えてきました。夏休み期間には、特別支援学校高等部生徒の方の利用がありました。利用曜日については週末（土曜日～日曜日）利用の方が比較的多く、予約についても週末は1～2か月先まで入っている状態です。平日利用については、通勤している事業所の送迎車両が可能な方は、定期的に利用されています。利用泊数については、1泊2日、2泊3日利用が多くなっています。

また、福岡市障がい者虐待緊急一時保護事業を受託しています。

5 その他の取り組み

(1) 親子体験室

昨年度は、2組のみの利用でした。どちらも1泊2日のご利用でした。1組目は保護者（お父様）とご本人（50代）、2組目は保護者（お母様）とご本人（20代）の方でした。次年度は、利用者増加のため、関係機関への広報（チラシ配布）などを行う予定です。

(2) 運営協議会

11月、3月に運営協議会を開催しました。委員は、8名（公民館館長・町内会長・地域社協会長・地域人尊協会長・民生委員主事・早良商工会事務局長・西鉄・NP0法人なごみの家）で構成しています。主に事業所利用者の方の生活状況の方向や各委員との情報交換を行っています。

(3) 地域との関わりについて

町内会の夏祭りに協賛するとともに、当日は、利用者の方と職員で祭りに参加しました。また、地元の入部少年野球クラブ名鑑への協賛もさせていただきました。

さわら南よかところネット（野芥・入部・四箇田・早良・内野・脇山・曲渕校区にある介護・障がい・医療サービス事業所の集まり）や凸凹ネットさわら（早良区内の障がい福祉サービス事業所の集まり）に参加し、地域の情報交換などを行っています。

(4) 防災・防犯について

防災に対する備えとして避難訓練を実施し、入居者の方への避難行動の習慣化と意識付けを行いました。

また、施設外周には、防犯設備として防犯カメラと防犯センサーを設置し、外部からの侵入等に対する対策を講じています。

(5) グループホーム（外部サービス利用型）のバックアップ

法人内に3か所ある外部サービス利用型グループホーム（今宿・皿山・壱岐団地）のバックアップを行っています。主な内容は、各グループホーム巡回担当事業所との連携による各所の状況把握や入居者や世話人からの要望などへの対応などを行っています。

(6) 職員研修について

法人内の新任研修、実践発表研修会、虐待防止委員会研修などに参加しています。また、法人内事業所が主催した強度行動障害に対する研修にも支援員が参加し、スキルアップに努めています。

(7) 苦情受付状況

平成29年度は、地域住民及び関係者からの苦情はありませんでした。次年度も入居者の方の快適な生活環境作りに努めていきます。

(8) 事故報告

当事者名	岩隈 徹（ハウス1入居者）
発生日時	平成29年5月13日（日） 午前9時57分
発生場所	早良ひまわりハウス ハウス1 1階食堂
事故状況	事故発生当日の午前中、食堂での余暇時間に、当事者は椅子の上にあぐらをかいて座っていた。その後、その状

態で居眠りをされ、そのまま頭部より前方へ転倒される。事故当時現場には、支援員 1 名、世話人 1 名が現場にいたが、支援員は、他の利用者の対応をしていた。世話人はキッチンで片付け業務を行っていた。どちらも、当事者転倒の場면을直接確認できていなかった。事故後、救急搬送にて近くの緊急病院へ搬送された。医師の診断によりハウスへ戻られた後の様子観察ということで一旦、早良ひまわりハウスに戻る。2 日後、精密検査を受けた結果、頸椎損傷と診断を受ける。

事故後経緯 福西会病院、せき損センター、福岡みらい病院と転院される。早良ひまわりハウスは 9 月で退所される。その後、原土井病院での入院の後、障がい者支援施設「たいようの里」（医療行為可能施設）へ入所される。（平成 30 年 5 月）

損害補償 今回の事故に対しては、早良ひまわりハウスとして、当事者に対して損害補償を行うため、（株）損保ジャパン日本興亜に請求手続きを行っている。

その後の対応（事故防止など）

事故後、職員全体に対して利用者把握の徹底を再確認し、今回のような危険な行動や行為に対しては随時、報告し、事故防止につなげるよう確認を行った。さらに、今回のように椅子から転倒の可能性がある場合は、椅子に座らず床にマットを敷いて対応している。実際に短期入所利用者の方椅子座位の状態が難しかったケースではマットを敷いて過ごしてもらっている。入居者の方に対して危険な行動や行為については職員が注意喚起を行う旨を伝え、事故防止に努めていきたい。また、入浴時の転倒事故も予測されるため、足元が不十分な方に対してはシャワーチェアーを用意し、浴室での転倒事故防止策を行っている。

（9）余暇支援（休日）

現在休日については、室内でトランプやオセロなどをして過ごされたり、テレビ鑑賞などで過ごされています。時には利用者さん数名をお連れして買い物などに出かけることもあります。今後、さらに休日のプログラムを新たに提供していく予定です。

6 特定相談支援事業

(1) 計画作成とモニタリングの実施と請求数

月	モニタ件数	計画件数	月	モニタ件数	計画件数
4 月	1 1	2 7	10 月	1 4	2 1
5 月	1 3	1 3	11 月	1 3	1 5
6 月	1 5	1 9	12 月	1 2	2 0
7 月	2 3	1 9	1 月	1 8	9
8 月	1 5	8	2 月	2 8	1 7
9 月	2 7	1 8	3 月	2 8	2 9

(2) 受け入れ状況

専従の相談支援専門員 2 名を配置して知的障がい児・者の計画相談及びモニタリング（担当者会議）を行っています。傾向として年度末にかけて計画作成数が集中しています。また、基幹相談支援センターと連携（支援会議の参加）を図りながら、業務を行っています。加えて、各相談支援専門員は、各種研修会に参加し、スキルアップに努めています。今後も、登録利用者の方の生活の質の充実のため関係機関と協力しながら計画案作成を行って行きます。